
堕ちた流れ星 ㊄

椋桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

堕ちた流れ星 シ

【Nコード】

N2436U

【作者名】

桜桜

【あらすじ】

読む上での注意

- ・意味不明 ・誤字多い ・オリキャラ
- ・たまに下ネタに走るかもしれない
- ・日本語がおかしい ・ただの俺得
- ・グダグダしてる ・矛盾点多い
- ・漢字分らない

意見やアドバイスがあったらどんどんお願いします！

流れ星（前書き）

私、桜桜はPCなどにうといので変なことしかすかもしれませんが、してしまつたらすみません。

あと私 学生でしかも作文苦手な人なので多分色々おかしいと思います。

それと投稿ペースは亀さんです。

読む上での注意

- ・意味不明 ・誤字多い ・オリキャラ
- ・たまに下ネタに走るかもしれない
- ・日本語がおかしい ・ただの俺得
- ・グダグダしてる ・矛盾点多い
- ・漢字分らない

意見やアドバイスがあつたらどんどんお願いします！

流れ星

昔から憧れていた。

天使とか魔法使いとか悪魔とかそういうものに。

会いたいと思ったし。

なりたいとも思った。

でもそんなこと叶うわけないっていうのは知っているから

諦めていた。

それでも多分

心のどこかでは信じていたのかもしれない。

いや信じてたんだ。

信じていればいつか・・・

そんな言葉

本当だなんて思えなかった。

でも

それがほんの数日前。

くつがえされたんだ。

彼はいきなり現れた。

いや墮ちてきたというべきなんだろうか。

彼は空から墮ちてきた。

それは　そう。

流星のように。

家が無いから住むなんて（前書き）

注意

・意味不明！！

家が無いから住むなんて

それは風呂上りでベランダに出て空を見ていた時だった。

「あ。流れ星・・・願い事・・・」

金が欲しい金が欲しい金g・・・

「ん？」

なんかこっちに近づいてきているような気がする・・・

気のせいじゃない・・・？

どっかーん

ぶつかった。

というか衝突した。

という方があっているようなかんじだ。

痛い。すごく痛い。

「いつーーー！！何？」

前を向く。

「・・・・・・・・！？」

驚いた。

驚きすぎて言葉が出ない。

何でそんなに驚くのかって？

それは簡単なことですよ。

落ちてきたのが普通の男子だったからですよ！！

「えっとー・・・え？」

「僕はルイス・ライン」

「え？」

「僕住む場所無い。ここに住ませて」

「はあ！？」

「駄目・・・かな？」

「駄目も何も・・・え？」

「・・・僕、堕天使」

なんかあまり・・・というか全然使わないような単語が出てきたぞ？

「罪を犯した・・・って事になってる」

「ことになってるって何……」

「それは秘密。言いたくない」

「……そう」

事になってるってことは違うのかな……

「って何してんのお!？」

「え?住んじゃ駄目だった？」

「駄目じゃないけど……土足禁止!靴脱げ!」

「……脱ぐの?靴」

「脱ぎます!」

「……変なの」

「この国では普通です!」

「ふうん……分かった。よいしょと……」

靴を脱がないんだ……変なの……

「……ん……眠い……」

「へ?」

「zzz」

「って寝てるし！」

寝るのはやー……

……っていかいつと住むことになってる！？

え？どうしよう？

とりあえず服とかー……

……なんとかなる！

よし！オツケー。

眠い！寝よう！

こうして謎の墮天使との生活は始まったのでした。

家が無いから住むなんて（後書き）

何がどうしてこうなった・・・

意味不明すぎてごめんなさい。

名前なんて後で聞け！（前書き）

あいかわらず意味不明です。

名前なんて後で聞け！

「忘れてた……」

起きてきたルイス。

「何を？」

「君の名前聞いてなかった」

「……ああ。そういえば」

「で？名前は？」

「えっと。名前は花咲 星華だけど」

「うん。分かった星華」

いきなり呼び捨てかい！！

「って時間！学校！！」

「学校行ってるの？」

「それが普通！」

「へえ……そうなんだ」

「……どうすんの？あんだ」

「…………どうしたらいい？」

「……………」

「……………」

沈黙。

「せーいーかー」

「うわっ！！？」

「時間やばいよー」

「三尾！？なんているの？」

「遅いからきたんだけど……………」

「あ。ごめん！今行く！」

「僕は…………？」

「家で静かにしてろ。何もするな。外に出るな！」

「うん」

「じゃあいつてくるね」

「うん。いつてらっしゃい」

「ごめん三尾！」

「大丈夫だよ。そんなことより急がないと・・・」

「ok!急ごうか！」

「うん」

急いだが見事に遅刻した。

学校でもあいつのことが気になって気になって

授業どころじゃなかった。

部活は休むか・・・

「おい。花咲！」

「はっ・・・はiiiiiiii!!?」

皆に笑われた。

全部あいつのせいだ・・・

帰ったら何してやろう・・・

とりあえずあいつ自身のことを聞いて

あとあいつの部屋作って

それから・・・

考えていたら授業が終わっていた。

寝たかっただけbョルイス

「ただいまあゝ」

しーん・・・

何にも聞こえない。

あいついるのか？

帰ったとか？

それはそれで嬉しいが嫌な予感しかない。

リビング。

いない。

キッチン。

いない。

自室。

いない。

トイレ。

いない。

風呂。

いた。

「何してんの？」

無反応。

ちなみに彼は服を着ている。

風呂に湯は入っていない。

なにをしてる？

わからない。

まったくの理解不能だ。

「ん・・・・・・・・」

起きた。

「あ。星華」

「何してんの？」

再び問う。

「寝てた」

「お前のいたところでは風呂で寝るのか？」

「いや。布団かベット」

「じゃあなんでここにいる？」

「うろつろしてたら眠くなったから」

意味が分からない。

何で少しぐらい我慢できなかった。

もつといい場所あっただろ！

何故よりによつて風呂なんだ！！

「一生ここで寝てろ！！」

「え。嫌」

なんなんだこいつ。

普通に答えやがって……

調子が狂う。

確かにそう言ったのは私だが

寝ている。

ルイスが。

ちなみにここは私の部屋だ。

何故？

そんなこと私は知らない。

むしろこっちが聞きたいのだ。

「ルイス。おい！起きろー飯だぞー」

「ご飯！ー！」

まさに「ガバツ」って感じた。

「おはよう」

「ん・・・おはよう・・・ご飯は？」

こいつは食べ物に敏感だ。

ご飯と言えばすぐに起きることが朝判明した。

「無い」

「・・・・・・・・え？」

「無い。聞こえなかったか？」

「なんで？」

「作ってないし、今何時だと思ってんだ？」

「・・・・・・・・１１時」

「正解。もう何か食べるような時間じゃない」

「・・・・・・・・昼のじゃなくて？」

「外を見る。あれが昼の明るさか？」

「夜」

「そうだよ」

「なんで起こしたの？」

「そこは私の寝るところ」

「・・・・・・・・どこにでも行けっ君言った」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「でしょ？」

なんだこいつ……

意味が分からん……

確かに言ったが……

「そういう意味じゃない」

「じゃあどついう意味？」

「知るか。自分で考えろ」

「……分かんない」

「知らん」

「……」

「どけ。邪魔。私寝るの」

「僕は？」

「下」

「……嫌」

「五月蠅い。住ませてあげてるだけ感謝しなさい」

「……ちえ……」

いっしょと暮らせる自信が無くなっていく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2436u/>

堕ちた流れ星 ㄱ

2011年10月9日06時36分発行